

1. 経営比較分析表

〇〇〇工業用水道事業

1. 経営の健全性 ・効率性

	数値	※	数値	★
①経常収支率 (%)				
②累積欠損金率 (%)				
③流動比率 (%)				
④企業債残高対給水収益比率 (%)		■		
⑤料金回収率 (%)				
⑥給水原価		■		
⑦施設利用率 (%)		■		
⑧契約率 (%)				

2. 老朽化の状況

	数値	※	数値	★
①有形固定資産減価償却率 (%)		■		
②管路経年変化率 (%)		■		
③管路更新率 (%)		■		

※指標（基準）を満たしている○、満たしていない× ■ 定量的な評価をできない項目のため評価不要
★類似団体の平均よりもよい値○、悪い値×

評価結果から みた課題

ここに<1. 2. の結果を参照し、課題を記入>

1. 経営比較分析表

〇〇〇工業用水道事業

1. 経営の健全性 ・効率性

	数値	※	数値	★
①経常収支率 (%)		○		×
②累積欠損金率 (%)		○		○
③流動比率 (%)		○		○
④企業債残高対給水収益比率 (%)		■		○
⑤料金回収率 (%)		×		×
⑥給水原価		■		○
⑦施設利用率 (%)		■		○
⑧契約率 (%)		×		○

2. 老朽化の状況

	数値	※	数値	★
①有形固定資産減価償却率 (%)		■		○
②管路経年変化率		■		○
③管路更新率 (%)		■		○

(例) 将来PPP/PFI導入により解決する項目に設定

※指標（基準）を満たしている○、満たしていない× ■ 定量的な評価をできない項目のため評価不要
★類似団体の平均よりもよい値○、悪い値×

評価結果から みた課題

ここに<1. 2. の結果を参照し、課題を記入>

2. 具体的な数値に基づく分析と重要課題の整理

- 下に示す6つの課題は工業用水道事業においてPPP/PFI手法によって解決できる可能性があるとしてされている課題である。
- (…………) のなかを具体的な数字を用いて埋めてみると、課題がいつ深刻になるのか、どれくらいお金が必要なのか、といったことが明確になる。
- この課題整理により、いつまでに・何をしなければならないかを洗い出す。

	課題	具体的な課題の内容(例)
1	更新需要の増大	• 施設が大規模更新を必要とするのは(西暦…………)年で、(…………)百万円かかる。
2	施設能力が過大	• 給水能力は(…………) m ³ /日だが、契約水量合計は(…………) m ³ /日に留まる。
3	料金収入の減少	• 現行の料金体制では(…………)年に(…………)百万円の資金不足になる。
4	企業債残高の増加	• 現在の企業債残高は(…………)百万円であるが、(…………)年後に(…………)倍になる。
5	職員数の不足	• 現在の職員は(西暦…………)年に退職するが、後継者がいない。
6	施設・管路の老朽化、耐震性の不備	<ul style="list-style-type: none"> • 老朽化が指摘された管路は全体の(…………)パーセントである。 • 耐震性については工事等が必要であることを(…………)年から認識している。

3. 総合評価

経営比較分析表の数値の結果(スライド1)

-<経営比較分析表の、気になる項目、数値とその理由>.....
-<経営比較分析表の、気になる項目、数値とその理由>.....
-<経営比較分析表の、気になる項目、数値とその理由>.....

将来起こりえる問題を数値から導き出した結果(スライド2)

-<スライド2の要点:書き出した事項のうち深刻と推定される課題>...
-<スライド2の要点:書き出した事項のうち深刻と推定される課題>...

総合評価(考えられる対応策)

-<PPP/PFIで対応可能かどうかを記載>.....
-<その他記述>.....

＜簡易な検討＞の結果 説明ポイント

説明資料（スライド順）

説明している内容

1. 新規参入および撤退事業の見通し

将来の水需要はどう変動するのか

2. 大規模更新の時期

施設の大規模更新はいつ・いくら必要か

3. 収支等の見通し

収支がマイナスに転じる時期はいつか

4. 供給単価と給水原価

いつから供給原価は上昇するのか

5. 課題整理及び対応方法の検討

上記を踏まえて課題の整理をする

6. PPP/PFI手法の選択

どの手法を選択するか

7. 経済改善効果（費用削減）

PPP/PFI導入による費用削減効果は
どれほどか

1. 新規参入および撤退事業の見通し(水需要)

新規参入企業の把握

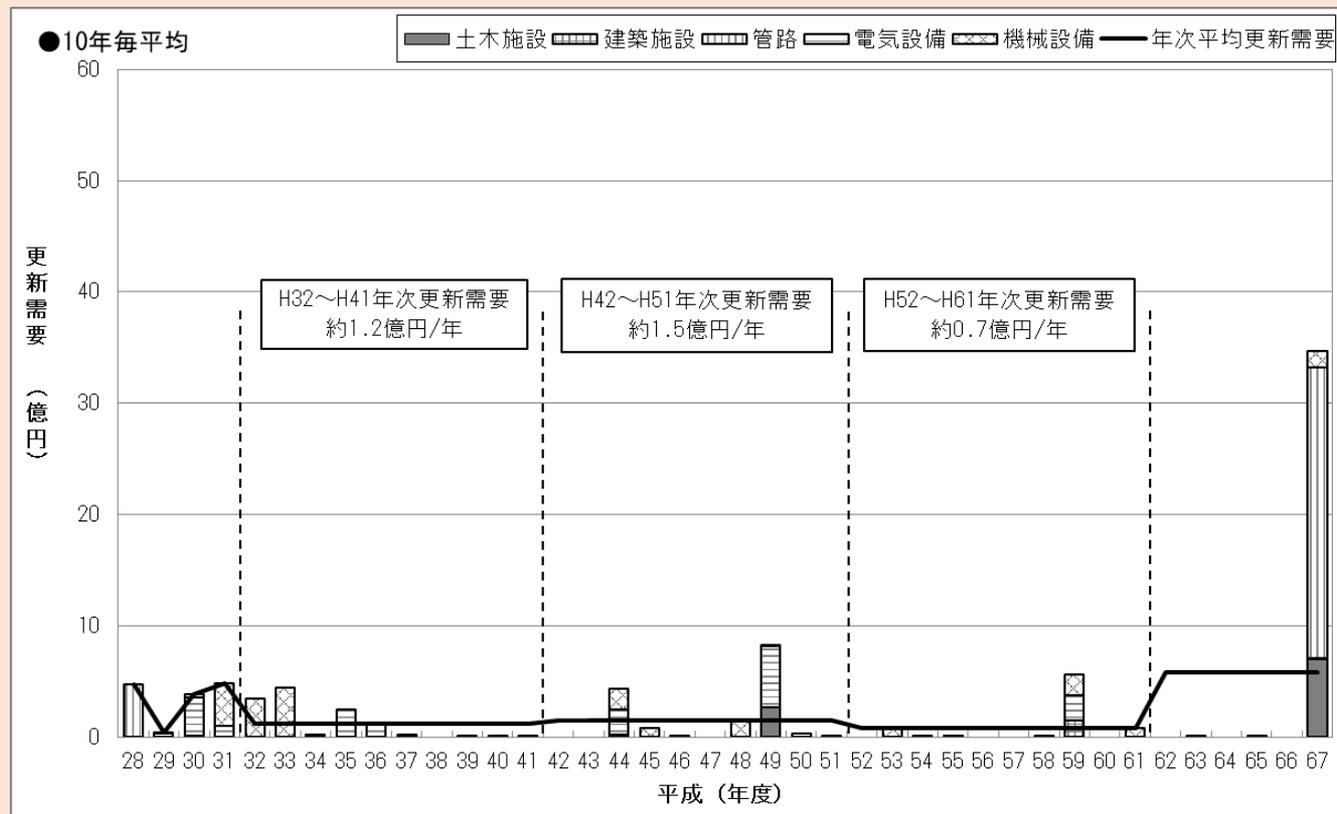
- ・ <今後数年の間に新規参入企業のある・なしについて、動向を記入>

撤退企業の把握

- ・ <今後数年の間に撤退する可能性のある企業について、動向を記入>

2. 大規模更新の時期

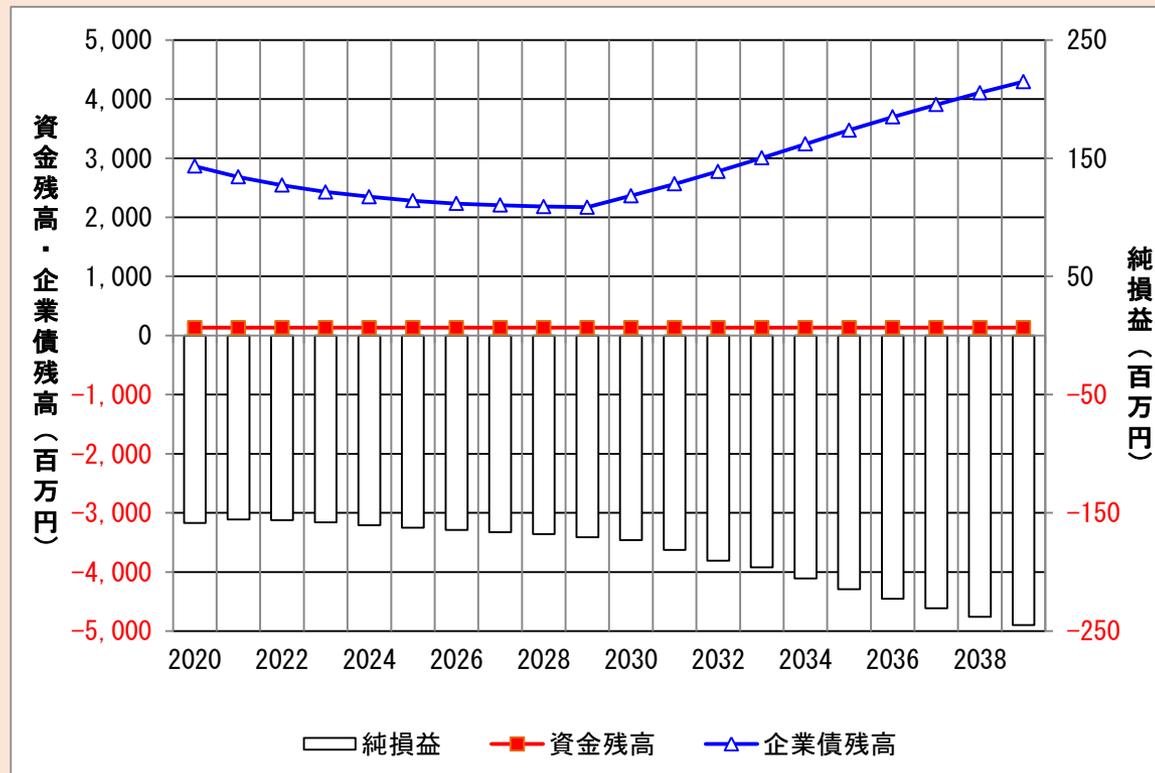
＜提示するデータの例＞



出典:『工業用水道分野におけるPPP/PFI導入の手引書(案)』(令和3年3月)の図2-6を転載

3. 収支等の見通し

＜提示するデータの例＞



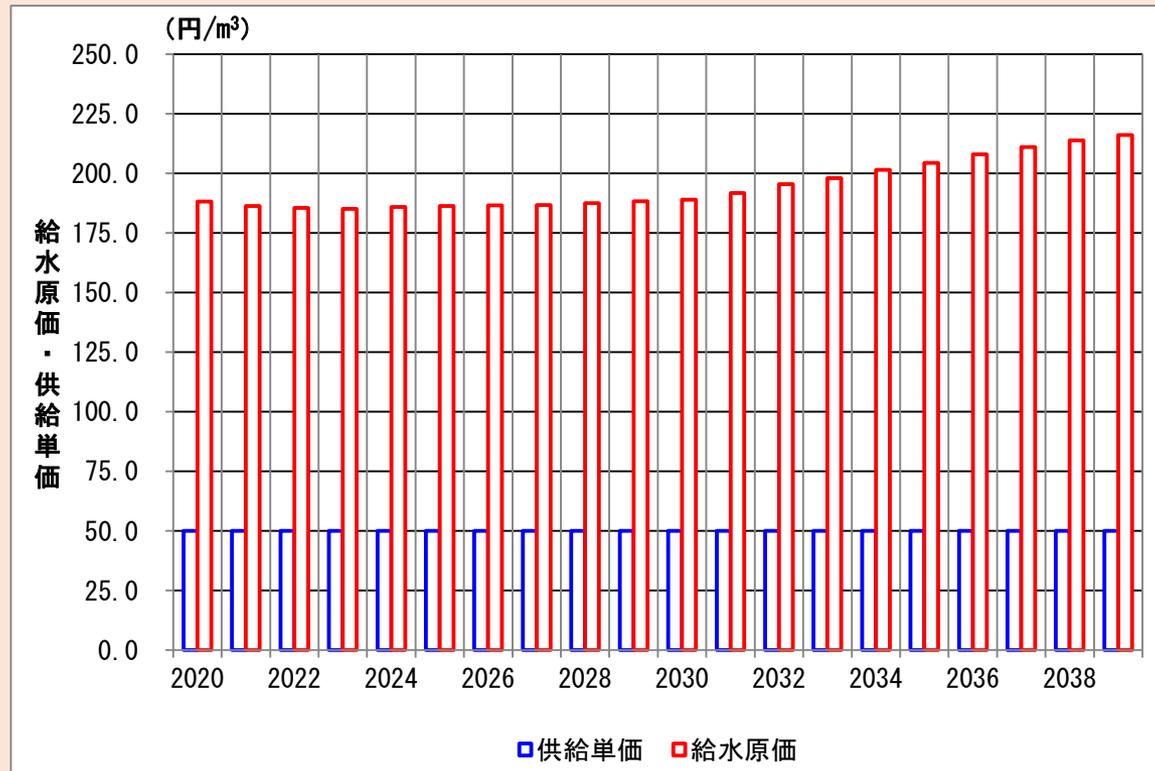
出典：『工業用水道分野におけるPPP/PFI導入の手引書(案)』(令和3年3月)の図2-7を転載

説明

- 現状維持の場合、●●年を境に企業債残高が増加の一途を辿る
- これに平行し、純損益の減少も一途を辿る
- (その他課題を記入)
- (その他課題を記入)

4. 供給単価と給水原価

＜提示するデータの例＞



出典：『工業用水道分野におけるPPP/PFI導入の手引書(案)』(令和3年3月)の図2-8を転載

説明

- 現状維持の場合、●●年を境に供給単価が増加の一途を辿る
- このことに平行し◆◆◆のような弊害も発生する可能性がある
- (その他課題を記入)
- (その他課題を記入)

5. 課題整理 & 対応方法の検討

〇〇〇工業用水道事業の課題

- <課題1>
- <課題2>
- <課題3>

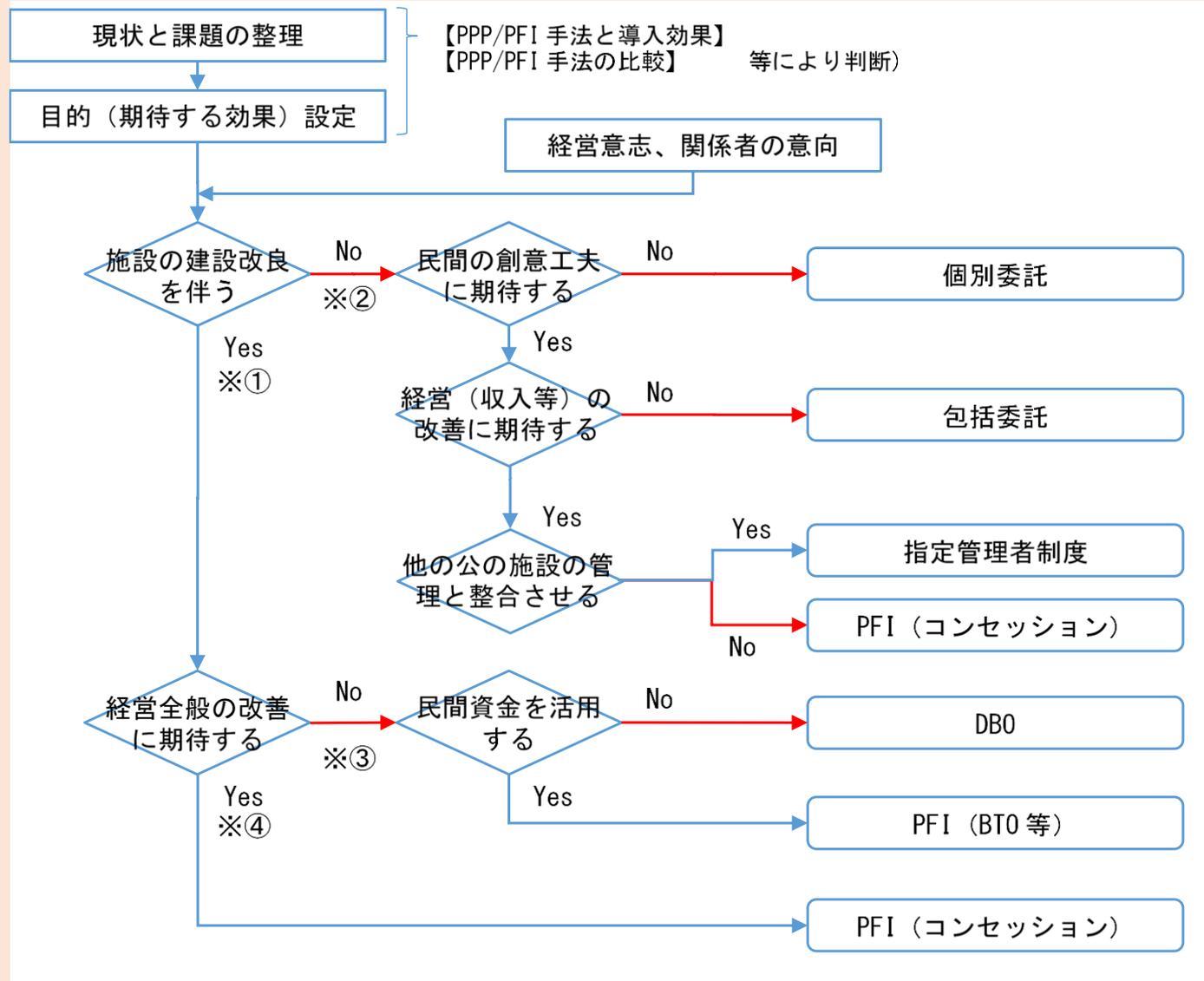
これからの課題解決の方向性

- <課題解決の方法、方向性>
- <課題解決の方法、方向性>

将来理想

- <将来理想1>
- <将来理想2>

6. PPP/PFI手法の選択



7. 経営改善効果

＜提示するデータの例＞

簡易VFMの結果(利用料金収入なし)(事例:有明工業用水道)

		従来型手法	採用手法	VFM
※現在価値のVFM	金額	10,594,080	10,375,820	218,260
	%			2.1%

PPP/PFI手法簡易定量評価調書(利用料金収入なし)(事例:有明工業用水道)

	従来型手法	採用手法
整備等(運営等を除く。)費用	43.9億円	41.8億円
〈算出根拠〉		
運営等費用	87.0億円	83.8億円
〈算出根拠〉		
利用料金収入	0.0億円	0.0億円
〈算出根拠〉		
資金調達費用	6.2億円	8.3億円
〈算出根拠〉		
調査等費用	—	0.35億円
〈算出根拠〉		
税金	—	0.03億円
〈算出根拠〉		
税引き後損益	—	0.06億円
〈算出根拠〉		
合計	137.2億円	134.3億円
〈算出根拠〉		
合計(現在価値)	105.9億円	103.8億円
財政支出削減率		VFMは2.2億円 2.1%
その他(前提条件等)	事業期間20年間 割引率2.6%	

コンセッションを導入した場合、現行体制のまま運営するよりも2.2億円削減できる。

まとめ<簡易な検討>の総合評価

〇〇〇工業用水道事業の課題

-<課題1>.....
-<課題2>.....
-<課題3>.....

これからの課題解決の方向性

-<課題解決の方法、方向性>.....
-<課題解決の方法、方向性>.....

以上の検討の結果により、詳細な検討に

[進む] / [進まない]

※[進む]、[進まない]のどちらかを選択